

日本補綴歯科学会東関東支部

市民フォーラム

13:30～14:30

茨城県総合福祉会館コミュニティホール

『お口の機能から介護予防を考える』

東京都老人医療センター 歯科口腔外科医長 平野 浩彦

超高齢化社会に直面している現在、健康で自分らしい「老後」をどのように迎えるのかは、人々の大きな関心事の一つであると思います。ライフステージに沿ったヘルスプロモーションの視点から考えると、高齢期においては、中年期からの疾患予防としての生活習慣予防だけでなく、老年症候群などによる生活機能低下を予防することが大切です。

老年症候群とは、これまで”年のせい“とってあきらめられてきた身体状況の変化で、平易な表現にしますと、“危険な老化”と言い換えることができます。老化には白髪が生えるような生活に重篤な支障を持たさないものから、一方で足腰の虚弱化のように転倒のリスクを高め、日常生活を脅かすものまであります。こういった老化の中で、高齢者の日常生活に直接的な不具合をもたらすものを“危険な老化のサイン”として捉え、このサインを早期に発見して早期に対処することが、“介護予防”の趣旨です。

高齢者の生活機能の自立支援の一つとして、前述しました“介護予防”が平成18年4月から具体的な国の施策として動き始めました。

次に、高齢者の日常生活の中で「食」にかかわる問題に注目すると、健康を維持する栄養面だけでなく、楽しく、美味しく、安全な食事への支援が必要とされています。「食べる楽しみ」を末永く享受するためには「食べる機能」を担う口腔機能の維持向上が不可欠です。口腔機能は摂食・嚥下機能だけではなく、人とのコミュニケーションに必要な会話や感情表現の機能もあり、日常生活の中心的な機能です。したがって、口腔機能の低下予防は生活機能の低下予防に大きく貢献できると考えられます。以上のことを基盤に、介護予防サービスの一つとして口腔機能向上サービスが創設されました。

当日は、口腔機能における“危険な老化”について皆様方と考えながら、その対策についてお話し、さらに地域で行われている介護予防サービスについてもご紹介していきたいと思っています。

演者略歴

日本大学松戸歯学部卒業 医学博士
1992年より東京都老人医療センター 歯科口腔外科主事
2002年より同センター 歯科口腔外科医長
現在に至る

日本老年歯科医学会評議員
東京都老人総合研究所非常勤研究員
日本大学松戸歯学部非常勤講師

(社) 東京都歯科医師会 高齢者保健医療常任委員会
(社) 日本歯科医師会 介護予防等推進打合せ
東京都介護予防推進会議・口腔ケアプログラム開発・普及検討委員会
厚生労働省・口腔機能の向上プログラムマニュアル作成研究班、
厚生労働省・生活機能評価に関するマニュアル作成研究班
などに参加

2006年 東京都知事表彰

